

# 平成 1 2 年度供給計画の概要

平成 12 年 3 月

北陸電力株式会社

## 目 次

### はじめに

1 . 需要想定	.....	1
2 . 電源開発計画	.....	2
3 . 需給計画	.....	3
4 . 主要送電線路・変電所の整備計画	.....	4
参考：工事資金	.....	5

## はじめに

本年3月21日、部分的な小売自由化や経営の自主性尊重を盛り込んだ電気事業法が施行され、電力小売を巡る新たな市場競争が始まりました。

一方、エネルギーセキュリティの確保、供給信頼度維持や地球環境保全などの、公益的課題の達成に引き続き努めていく必要があります。

このため、当社は、北陸電力グループあがての抜本的な経営改革を断行し、価格競争力強化に努めるとともに、安全を最優先に原子力を中心とした電源多様化を進め、「低廉・良質・安定・クリーン」な北陸電力ブランドを一層充実することにより、地域の皆さまから信頼され、お客さま、株主の皆さまなどから選択される企業を目指してまいります。

平成12年度供給計画は、このような考えに立って、次の事項に重点をおいて策定しました。

### 経営効率化の一層の推進

北陸電力グループの総合効率向上により価格競争力を強化するとともに、お客さまのニーズにお応えする多様なメニューの提供に努めるなど、個別提案型マーケティング活動を展開してまいります。

- ・供給信頼度維持のもとさらなる創意工夫による設備投資・修繕費の削減と設備全般にわたる効率的な運用
- ・より効率的な業務システムを目指した北陸電力グループ体制等の再構築
- ・蓄熱式空調システム（エコアイス等）などを中心としたトータルプランの提案
- ・負荷率改善や経営効率化に資する新たな料金メニューの提供

## 長期的展望に立った電力の安定供給の確保

安定供給の確保、供給コストの低減および環境保全の観点から、原子力、高効率石炭火力などバランスのとれた電源多様化を推進するとともに、信頼性と経済性を重視した電力流通設備の整備を行ってまいります。

- ・ 志賀原子力発電所 2 号機の建設工事の着実な推進
- ・ 敦賀火力発電所 2 号機の運転開始
- ・ 水力開発の推進
- ・ 基幹系統の整備

## 地球環境問題への積極的な対応

環境との調和、循環型社会への取組みを社会的使命と考え、原子力や省エネルギーの推進などによる温室効果ガスの削減をはじめ、環境保全に資する活動に積極的に取り組んでまいります。

- ・ 志賀原子力発電所 1 号機の安定・安全運転による利用率向上
- ・ 志賀原子力発電所 2 号機建設工事の着実な推進
- ・ 太陽光発電・風力発電など、自然エネルギー普及への支援
- ・ 省エネルギーやリサイクル活動など環境保全活動の推進

## 1. 需要見通し

### (1) 販売電力量

民生用需要は、生活の快適志向の高まり、情報化や都市再開発事業の進展などから、省エネルギーが一層進むものの、引き続き堅調な伸びで推移するものと想定しました。

また、産業用需要は、電気機械を中心に情報・通信機器関連の生産増加などを織込み、安定した伸びで推移するものと想定しました。

### (2) 最大電力

年負荷率については、民生用需要における冷房需要の増加が見込まれるものの、蓄熱調整契約の普及拡大、深夜需要機器の推奨など、一層の負荷率改善努力を織り込みました。この結果、最大電力は、気温補正後では販売電力量を下回る伸びで、増加するものと想定しました。

こうしたことから、平成21年度の販売電力量は301億kWh、最大電力は613万kWになるものと見込みました。

第1表 需要見通し

	10 実績	11 推定 実績	12	13	14	15	16	21	年平均 増加率 10~21
販売電力量 (億 kWh)	240	247	250	256	262	267	273	301	2.1% (2.1%)
最大電力 (万 kW)	467	506	514	526	538	549	560	613	2.5% (1.8%)
年負荷率 (%)	61.8 (57.3)	58.5 (58.4)	58.5	58.5	58.5	58.5	58.6	59.0	-

(注)・括弧内は気温補正後の値。

・特定規模需要含む

## 2. 電源開発計画

電源開発にあたっては、長期にわたる電力の安定供給を図るため、地球環境問題に配慮しつつ、原子力、高効率石炭火力などバランスのとれた供給力構成を目指し、地域から信頼される発電所づくりを推進します。

珠洲原子力地点については、中地域3社による協調体制のもと、引き続き地元合意形成に努めます。

第2表 電源開発計画

電源種別	区分	地点名	最大出力 (万kW)	着手年月	着工年月	使用開始 年月
原子力	工事中	志賀2号	135.8	9 - 3	11 - 8	18 - 3
石炭火力	工事中	敦賀2号	70	7 - 11	9 - 3	12 - 10
水力 (揚水)	14年度 着手	高倉	70	15 - 3	17年度	23年度以降

(注) 高倉揚水発電所は、電源開発(株)との共同開発。

<参考> 公営・その他の電源開発計画

事業者名	地点名	最大出力 (kW)	着手年月	着工年月	使用開始 年月
富山県	新大長谷第一	7,500	8 - 3	9 - 12	13 - 9
石川県	新枯渕	3,600	S61 - 3	10 - 10	18 - 3
日本海発電(株)	新熊野川	5,000	——	10 - 4	13 - 7
	久婦須川	3,100	3 - 12	6 - 7	14 - 4

### 3. 需給計画

需要見通しならびに電源開発計画に基づき，稼働率の低下した経年石油火力発電所の計画停止や合理的な補修計画など，供給設備全般にわたる効率的な運用により，長期にわたる安定供給の確保を図ってまいります。

なお，設備全般にわたる供給力の有効活用を図り，引き続き広域融通を実施します。

第 3 表 需 給 計 画 (最大電力)

	11 実績	12	13	14	15	16	21
需 要 (送電端) (万 kW)	506	514	526	538	549	560	613
供給力 (送電端) (万 kW)	561	570	598	608	618	628	694
供給予備力 (万 kW)	55	56	72	70	69	68	81
供給予備率 (%)	10.9 (12.0)	10.9	13.7	13.1	12.6	12.1	13.2

(注) 括弧内は気温補正後の値。

第 4 表 電 力 量 構 成 比 (単位；%)

項 目 \ 年 度	11 (推定実績)	16	21	
	水 力	25	23	21
火 力	59	58	36	
	石 油	13	11	6
	石 炭	46	47	30
原 子 力	16	19	43	

#### 4 . 主要送電線路・変電所の整備計画

系統規模の拡大に対応し、供給信頼度を維持しつつ電力を安定に輸送するため、志賀中能登線、能越幹線を新設します。

また、需要増加に対応して、南条変電所の新設をはじめ、送変電設備を新增設してまいります。

第 5 表 送 電 計 画

区 分	件 名	工 事 概 要				使用 開始 年月
		電 圧 (kV)	電線サイズ (mm <sup>2</sup> )	回線数	亘 長 (km)	
12年度 着 手	志賀中能登線（新設）	500	410×4	2	16	16 - 11
13年度 着 手	能 越 幹 線（新設）	500	410×4	2	69	17 - 6

第 6 表 変 電 計 画

区 分	件 名	変 圧 器			使用 開始 年月
		電 圧 (kV)	容 量 (MVA)	台 数	
工事中	南条変電所（新設）	275/154	400	2	12 - 6



## <参 考> 工事資金

工事資金については、徹底したコストダウンに努めた結果、以下のとおり見込んでおります。

12年度 1,489億円  
13年度 1,193億円

### 工 事 資 金

(単位：億円)

項目		年度		12	13
拡 充	電 源	水 力		—	—
		火 力		236	—
		原 子 力		756	576
		小 計		992	576
工 事	送 電		47	193	
	変 電		50	34	
	配 電		61	60	
	給電・その他		17	20	
計			1,167	883	
改良工事他			322	310	
総 計			1,489	1,193	

# 電力系統図

(主要系統)

- ・発電電圧の数字は運転年月、出力を示す。
- ・送電線の数字は運転年月を示す。
- ・赤は、12～13年度着工分を示す。
- ・青は、工事中分及び着工準備中分を示す。
- ・日本海発電(株)を含む。

